



## 「会話」から…

美しく紅葉した桜がすっかり葉を落とし、秋が足早に過ぎようとしています。もう、朝夕は冬の寒さに体も委縮する様ですが、それとは正反対に、子どもたちの歓声が溢れる園庭には、一学期よりたくましくなったエネルギーと活力が溢れています。

各クラスでは音楽発表会のお稽古もありますが、日々子どもたちの興味や発見を活かした活動が、「会話」の時間を中心にどんどん活発になっているようです。年少組さんのあるクラスでは、季節外れのモンシロチョウが園庭で弱っているのを見つけ、「なんで寒いのにモンシロチョウさんは外にいたのだろう」と考え、「お母さんモンシロチョウとはくれて泣いていたのかな?」「ごはんを作ってあげたいね、何で作ろうかな?」「お部屋にあるドングリで作ろうか? 粘土で作ろうか」と真剣に話し合っています。別の年少組のクラスでは、廊下で見つけた小さな穴をアリさんの家と信じて、たくさんの紙で作ったご馳走を穴の前に置いて、毎日様子を見ていますが、この冬にはこれからどんな「会話」が広がるのか、本当に楽しみです。

年中組のあるクラスでも、ホットケーキ作りが発端で小麦粉に興味がふくらんだ子どもたちが、会話の中で「小麦粉で何が出来るか」を話し合い、「小麦粉粘土を作りたい」「うどんやラーメンを作りたい」という話が盛り上がり、その中で、置いていた小麦粉粘土に偶然「カビ」を発見し、今はカビの話題で「会話」が広がっています。こうして、生活や遊びの中で子どもたちの小さな気づきや発見が、豊かな「会話」の時間を作っていきます。

年長組さんは、秋のミニ遠足での経験が色々な「会話」を生んでいます。あるクラスでは、見に行った八尾空港の経験から、「飛行機に乗ると何が見えるか」「自分が鳥になったら地上がどう見えるか」の話し合いになり、「地図」にまで話題が広がりました。このクラスも今後の展開が楽しみなのですが、このような「会話」の時間には、実は色々な子どもたちの個性や姿が見えてきます。

年少の頃は、自分の思いを手を挙げてみんなの前で発言できるようになると、自信がつき、やがて積極的に、何人もの子が口々に発言しようとする子が増えていきます。最初は自己主張ばかりが強くなりがちですが、やがて順番に発言し、友達の発言も「聞こう」とする態度が少しずつ育ってくるのですが、中には、無口な子や、人の前で発言するのが恥ずかしい子もたくさんいます。私は、この発言をあまりしない子、もの静かな子も大事にしたいと思っています。

先日も、年長組の担任から聞いた話ですが、普段あまり会話に参加しない子が、実は家庭ではものすごくその時々会話の内容を、ご両親に話していたそうです。この子は、人前で「話す」よりも「聞いた事を伝える」のがすごく楽しいと感じているのですね。これもとても意味のある事です。

また、別の子は普段から物静かで、ある時の会話の話題ではあまり発言はしなかったけれど、実はその時話題になったことを、自分なりに家で作ってみようということを思い立ち、家族と相談して、材料をそろえ、形を工夫して、なんと動くおもちゃを翌日持ってきたのです。その日、クラスの他の子どもたちはそれを見て大騒ぎ。私もそれを見せてもらいましたが、その物静かな子の得意満面の表情が忘れられません。

「会話」の中で自己主張をしっかりすることも大切ですが、人の話を静かに聞き、自分なりの世界を持つ、また、思ったことを黙って実行してみることも別の意味でとても大切です。「会話」に上手に参加する事だけではなく、「会話」から何かが生まれる、その話題を自分なりに活かす態度こそ、私たちの期待するところです。子どもたちのこれからに、本当に期待したいですね。